

日本建築学会会長 秋山 宏（日本大学教授）

朱鷺メッセ連絡デッキ落下事故調査委員会「朱鷺メッセ連絡デッキ崩壊メカニズム要旨」  
（平成15年12月21日）を読んで

本要旨には、朱鷺メッセ連絡デッキの崩壊原因についての調査結果が述べられている。  
先ず、破壊の起点として次の3点を挙げている。

- 1) 斜材ロッド定着部
- 2) 上弦材
- 3) PCa床版 PC鋼より線

この内、2)、3)については、作用応力、材質、施工状況から見て、その可能性を排除している。

1)については、斜材鉄骨のコンクリート部への定着部の耐荷力が多角的に検討され、定着部の補強筋の有無、配置状況により耐荷力は大きな影響を受けること、補強筋の適切配置は確認できるものではなかったこと、最初のジャッキダウン、特に接合部に過応力が働き、ひび割れが発生していた可能性があること、長期応力下ではクリープ現象により、コンクリート破壊は緩やかに進行することなどを根拠に、定着部破断の可能性が極めて高いことを結論づけている。

崩壊メカニズムについては、定着部破断を起点として次々と定着部が連鎖的に破断し、その結果PC鋼より線の破断、鉄骨上弦材の破断が生じ、全体崩壊に至ったとの推定が現場の状況を符合すると結論されている。

本構造は外見はトラス構造に似ているが、それほど単純なものではない。トラス構造では接合部の詳細は最も重要である。本構造では鋼棒斜材とコンクリート床版との接合部がこれにあたり、この部分の明確な応力伝達機構は確認できない。

また、プレストレス導入が構造成立の鍵であるにもかかわらず、設計者と施工者の緊密な情報交換の痕跡が見られない。

こうした状況下での事故の直接原因に関しては、調査委員会の見解は妥当なものであると判断する。

しかし一方、不測の事故を招いた原因は、単に技術的原因のみに帰せられるとは断定できない。

連絡デッキの建設に関して、契約関係、設計管理、施工管理の責任・分掌関係がいかなるものであったかを明確にし、それらの不備、当事者間の意志疎通の欠如と事故との因果関係を明らかにすることが重要であると考ええる。

以上